

発刊にあたって

淑徳大学学長 長谷川 匡俊

平成21年度は、9月に歴史的な政権交代がなされたものの、新たな政治の混迷が始まった年でもあります。深刻な不況の影響から、失業率5.7%、求人倍率0.42倍、内定取り消し、過去最悪を更新しました。

本学では、国際コミュニケーション学部並びに同学部を基礎とする通信教育課程において大幅な入学定員割れを引き起こす結果となり、大学・学部による教育改革の推進はもとよりのこと、法人としても高等教育部門（大学・短大・専門学校）の将来構想検討委員会を発足させています。また前年度から準備を進めてきたコミュニティ政策学部・コミュニティ政策学科の届出申請が認可され、学生募集に入ると同時に、学士課程教育の趣旨・目的・方法等についての教員組織への浸透と開設準備が進められました。

3年目を迎えた看護学部では、領域別の本格的な実習（20週）が行われました。また本学実習教育の基幹的な施設である淑徳共生苑での社会福祉現場実習も本格化しました。教員のFDの実質化といった点では、他学部在先駆けて看護学部が積極的に取り組み、活動報告書を公表しました。

5回目の学生生活実態調査が行われ、学生の満足度や学習状況などの実態が浮き彫りになり、大学として取り組むべき教学上の課題も見えてきました。一方、平成16年度に受けた大学基準協会の認証評価を、同23年度に受けるための組織体制（大学改革室→認証評価申請統括室）を発足させました。

近年力を入れている学生による社会貢献活動については、地域支援ボランティアセンターを拠点に活発化してきており、たとえば、日本赤十字社千葉県支部の青年赤十字奉仕団に「淑徳大学分団」として加盟したり、地域の防災や災害支援の活動を目指して「学生消防隊」が創設されたことなどが挙げられます。

雇用情勢の悪化を反映して、卒業生の就職内定率は過去最低とみられる数字で、前年より14%減の79.5%（総合福祉学部）、72.5%（国際コミュニケーション学部）に止まりましたので、今後は巻き返しを期して、ゼミ担当教員との緊密な連携ときめ細かなキャリア支援体制の整備を図らねばなりません。

このほか、平成27年の創立50周年に向けて、淑徳大学50年史編纂委員会が発足したこと。千葉キャンパスに10階建ての新棟（15号館）が、蘇我駅付近に新若樹寮（女子学生寮）がそれぞれ竣工をみました。

むすびに、年報の執筆・編集を担当された役職者並びに大学自己点検・評価委員会の各位に謝意を表して、ご挨拶といたします。

2011（平成23）年3月